

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174100453), 法人名 (株式会社 コスマライン), 事業所名 (グループホーム和の杜), 所在地 (釧路市星が浦大通3丁目2番14号), 自己評価作成日 (令和元年12月5日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々の住みやすい環境作りに努め、目配り・気配りを忘れず衣・食・排泄・水分摂取を重視したケアを行っている。利用者の健康を考えて温熱・電位治療器ローズテクニーを使用している。利用者・家族・職員がありのままの姿で向き合う事で良い関係作りが出来ている。職員は仲間を大切にし、従事年数の長い介護職員のこれまでの経験で学び得た事や看護師の知識を全体で共有し、チームとしての自覚を持ち一体となって日々のケアに活かし、活き活きと働いている。ホーム内を綺麗な環境に保つ事で利用者が落ち着いた気持ちで生活が出来るよう、又、感染症の予防に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100453-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市の西部地帯で周囲には工場や商業関係店舗が多く、住宅地や大型店スーパーが混在する星が浦地区としては、幹線から一歩奥まった静かで落ち着いた環境下に立地している。建物は平屋の1ユニットで、郊外のレストランを思い起こす洒落た造りであり、風情ある佇まいに9人の高齢者が生活をしている。当事業所の優れた点は、1ユニットという小規模の特性を活かした介護の姿勢を評価したい。具体的には上履きを使わない介護である。どのホームもナースシューズやスリッパ、運動靴を上履きとして利用し、台所から風呂場、トイレまで上履きで活動しており、そのまま脱ぐこともなく利用者の居室に入る事が当然としているが、当ホームでは最初から上履きを使用せず、裸足での活動で事業所内の介護を担っている。上履きという作業靴のまま居室に入る、土足で利用者の部屋に入るという土足介護を戒め、利用者の視線を大事にする介護本位に徹している。利用者を介護の対象者と扱うのではなく、利用者をサービスの対象者として位置づけながら「あなたの笑顔、応援します」を日々実践し、全職員で取り組んでいる当事業所、和の社の今後に、大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し職員が意識するように努めている。理念の他約束等も掲示し、利用者・家族・地域の方々・職員が一体となり、馴染みのある環境の中で助け合い、明るく生きがいのある暮らしが出来るよう努めている。	法人の3つの約束や独自の理念、事業所の目標を掲げ、研修や会議等で話し合いながら実践に活かせるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホーム近隣の施設での行事や町内会の総会やごみ拾い等に参加して交流を図っている。又、災害時の相互協力や冬期間の除雪の協力もしてもらっている。	町内会に加盟し、町内での地域活動に参加しながら、また事業所の行事にも参加を依頼し、相互の関係性が深まり、近隣の商店では事業所内の除雪までしてくれる等、日々の交流が進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会へ加入し、施設の概要や利用者についての理解を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・包括支援センター・町内会の方々に参加して頂き、ホームの近況やお知らせ等を報告し、意見を頂いてサービスの向上に努めている。	包括センター職員や家族、町内会、事業所職員の参加により運営推進会議は2ヶ月毎に定期的で開催されている。議事内容も行事の内容だけに留まらず、事故やヒヤリハットまで及んでおり、サービス向上に繋げている。	運営推進会議の性格から考慮し、第三者が定期的に会議に参加する意義を踏まえ、今後は全家族・全関係機関に議事録を送付し、事業所の理解に役立てるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告や相談等、必要に応じて連絡を取っている。	行政の窓口とは、運営推進会議や実施指導、制度の運用についても随時実質的な指導を受けており、情報交換も含め、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修にて身体拘束の意味をきちんと理解し、利用者の立場に立ったサービス提供に努めている。又、3ヶ月に一度会議にて職員同士お互いの行動を振り返り、不適切なケアが無いかな確認し合い、身体拘束を行わないよう努めている。	身体拘束禁止委員会を設置し、指針の基で3ヶ月毎に現状の介護内容の点検や事例検証等々で開催している。議事内容は、直近の会議等で都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場になり、自分の身に置き換えたらと会議等で話し合いを行っている。研修へ参加して学ぶ機会を設けたり、職員の精神的なケアを行う事で虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社全体の研修への参加にて職員が学ぶ機会を作り、理解に努めている。又、必要な場合はご家族や関係者と話し合い対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の読み上げにて細かな部分も説明を行っている。不安や疑問があれば都度解り易い説明を心掛け、理解・納得をしていただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の来訪時に意見・要望を聞く機会を設け、気軽に話せる関係作りを行っている。意見や要望があった際は反映させるよう努めている。	推進会議での家族の参加も多くあり、また来所訪問も頻繁にあるため、その都度意見や苦情を聞き取り、サービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中で個々の意見を聞くとともに、毎月のスタッフ会議の中で職員の意見を聞き、改善案をその場で話し合い反映させている。又、ホームの意見・提案等も会議等を通して代表者へ伝えている。	定期的な会議や申し送り時に提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また法人役員との面談も随時設定し、職員の意見やアイデア、工夫について取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇や勤務状況等の希望を聞き、日々の仕事への負担を軽減して生き生きと働ける環境作りを心掛けている。自己評価や個人面談を行い、手当や昇給の見直しも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内研修を行うとともに今後受けたい研修の希望を聞き、積極的に参加が出来るよう努めている。又、研修に掛かる費用等を支援する事で外部研修にも参加しやすい環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や連絡協議会に参加して交流や情報交換を行い、継続した付き合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化や知らない人と接する不安を軽減し、安心して生活が出来るよう事前に面談やホームの見学を行っており、必要に応じてご家族と連絡を取り本人が安心出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへの入居を選択されたご家族の状況や気持ちを受け止め、疑問や要望等を遠慮なく話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が必要としている事の把握に努め、様々なサービスの相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場にならず本人の意見を尊重し、感情を共感し互いに助け合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係性の把握をして理解し合えるよう努めている。面会時や外出・外泊時に必要な支援をして本人とご家族の絆を深められるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴の把握に努め、友人・知人の訪問や馴染みの場所への外出、これまでの習慣を継続出来るよう努めている。	家族等の来所時にはゆっくりと語られるように配慮している。利用者の希望を優先し、気に入った景色・地域や好きだった食べ物屋にも同行し、馴染みの思いが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、心身の状態も考慮しながら利用者同士がより良い関係で生活出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も訪問され、近況報告やホームで過ごした日々のお話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の思いや意向を汲み取り、希望に沿う事が出来るよう努めている。困難な場合はご家族とも話し、職員で話し合いをして本人の意向に沿えるよう努めている。	日々寄り添いながら生活し、その中で感じた本人の思いや意向、好き嫌い等を大切に共有し、介護側の都合を極力排しながら、本人本位のケアに徹している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャーから情報を聴き、これまでの生活歴の把握をするとともに、日々の生活の中から本人・ご家族より新たな情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方や心身の状態、出来る事・出来ない事等を職員で話し合い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態に合わせ本人やご家族と話し合い、担当者会議を開きより良い生活が送れるように介護計画を作成している。また、重度のケースは医師・看護師の助言を聴き介護計画に取り入れている。	担当が日頃の生活や介護日誌からモニタリングを重ね、介護支援経過を基にスタッフで検討し、家族意見や医療面を加味しケアプランを作成している。病変等が生じた場合は、変更等を検討して現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状態・ケアの内容を介護記録に記入して職員間で情報を共有し、センター方式シートを活用して計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度・その時々に応じて柔軟な支援をするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事や他施設での行事への参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ病院の受診をしており、医師へ手紙にて日々の報告や相談をしたり、必要に応じて職員が付き添い受診をしている。在宅支援診療所との連携により定期的に往診を受けている方もおり、適切な医療が受けられている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重しているが、状況に応じて協力医の往診や訪問看護も検討し、安心できる医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により月2回の健康相談をしており、生活の様子を伝えて助言・指示をもらい実行している。週2回ホームの看護師も勤務しており、こまめに健康状態の観察・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中ではご家族と連絡を取り様子を聞くとともに、職員も面会に行き看護師や相談員と情報交換をしている。症状が緩和され医師から退院の許可が出た時は早期退院し、退院後のケアについて相談をしてホームで安心して生活が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	個々の状態により、早期に看取り介護についてご家族と話し合いを行い、かかりつけ医・看護師とも話し合いのもとに方針を共有している。	看取りについては積極的に利用者の意向に沿えるように努め、職員の研修も随時行い、往診と24時間オンコール体制で臨んでいる。現状の利用者では3名の看取り希望があり、チームとしての支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応マニュアルの読み返しを行っており、実際に起きた際はすぐに対応について振り返って職員で話し合いをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの災害について自主訓練を行い、消防立ち会いのもと避難訓練を行い助言をもらっている。地域の方へ文書にて協力依頼を行っている。	年2回の避難訓練を実施し、冬季の暖房装置や食料の備蓄も整え、相互協力を近隣の店舗建物と結び、また非常時にソーラー発電も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方や態度、居室への出入り等に配慮し、人格の尊重・プライバシーの保護に努めている。個人情報の保護について会議で職員に話している。	介護の基本は礼節を尊ぶ事である旨を十分に理解し、親しさと馴れ馴れしさに注意しながら、一人ひとりの個性を大切に守りながら接し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを察し、希望が言いやすい環境作りを心掛けている。日常生活の中で自分で選択し決定が出来る状況作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々々の心身の状態やその人らしさを大切にし、利用者のペースに沿って対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に沿いながら、衣類も着やすさ・動きやすさ・季節も考慮して選んでもらっている。化粧品等の買い物も支援し、2か月に1回訪問美容師さんに来てもらって散髪をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの把握に努め、日々の献立に活かしており、誕生会は本人の希望に沿った献立にしている。食事の仕込みやおやつ作りも一緒に行っており、後片付けも行っている。	2週間程度の献立を立てているが、好みや希望に沿いながら、楽しめる食事を目指しており、お手伝いを募ったり、職員も同席しながら笑いのある食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や器の工夫をし、栄養のバランスも代替えや補助食品等で補っている。水分も個々の好みや状態に合わせて飲みやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯間ブラシや舌ブラシ、歯ブラシの硬さ等も個々の状態に合わせて使用して見守りし、磨き残しを職員が対応している。週3回ポリデントで義歯の洗浄をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを記録・把握し、出来る限りトイレでの排泄が出来るようにしているが、状態によってパッド・リハビリパンツを使用している。夜間帯も状態に応じてオムツ・パッド・リハビリパンツを使用している。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個人の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を個々に記録・把握し、水分摂取・運動・食事に気を付け自然排便が出来るよう心掛けている。便秘症の方についてはかかりつけ医と相談し、下剤等を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の心身状況を考慮しながら、その時々で入浴を楽しめるよう支援している。重度のケースにおいては、職員2名対応にて危険の無いようにしている。	月曜から木曜日までお風呂を準備しているが、状況に応じながら入浴支援に努めており、拒否者には無理強いすることなく、臨機応変にお湯を楽しむ、個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状況に応じて居室で休んだり、居室内やフロアで思い思いに過ごせるよう支援している。日中に運動をしたり、就寝前にホットミルクを飲んだりして夜間帯も安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個々にファイルして常に確認出来るようにしており、服薬の変更があった場合は内容・副作用等を周知して皆で症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や「やりたい、してみたい」という気持ちを尊重し、どうすれば出来るかを皆で考えながら、楽しんで行ってもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って買い物やドライブ・外食等を行っており、ご家族の協力のもと自宅での外泊も行っている。外出が困難なケースにおいても、外気浴や近隣の散歩をして少しでも外気に触れる機会を作っている。	季節のドライブ等々の花見や紅葉狩りの他に、買い物や外食にも出かけている。事業所の周辺は交通量も少なく、前庭も広いため外気浴に適しており、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されている方には常時所持して外出時に使えるようにしており、自分で保有する事が困難な方には外出時に所持してもらうよう対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいるご家族や友人からの電話には都度対応し、本人の希望時こちらからの電話にも対応している。封筒・はがき等を用意しており、いつでも手紙等を出せるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう月毎の装飾をしており、春から秋にはウッドデッキに鉢植えの花を置きホーム内から見えるようにしている。居室内は自分で創作した物やご家族が持ってきた物等で好みの装飾をしている。	平屋建ての大きな家屋であり、食堂兼居間は広がりのある空間で、採光も良く、明るい落ち着いた居場所となっている。温度や湿度の管理も適性で、華やかな装飾も避け、生花等の季節感でゆっくりと過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でゆっくりとフロアで過ごしたり、時には居室へ来訪して交流をしたりとその時々に応じて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた馴染みの物や好みの物・使い慣れた物を持ってきてもらっており、本人やご家族と相談して入居後にも持ってきてもらっている。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気を感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かして安全に生活が出来るように手摺りの設置・自室への目印・張り紙で案内をする等工夫している。		